高岡市埋蔵文化財調査概報第25冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅴ

— 平成5年度，二塚地区の遺跡分布調査 —

1994年3月

高岡市教育委員会

例　言

1．本書は，富山県高岡市における埋蔵文化財分布調査の概要報告書である。

2．本調査は，平成５年度の国庫補助金の交付を受けて，高岡市教育委員会が実施した。

3．調査対象地は，高岡市内，旧市南部地域の内，二塚地区である。

4．現地調査は，平成５年４月12日から同年11月19日までの実働18日間である。

5．調査関係者は，次のとおりである。

社会教育課長；野村一郎

課長補佐；鹿島誠一

文化係長；大石茂

係員；山口辰一

係員；榎木和代

6．本書の執筆は山口が担当した。

凡　例

遺跡，埋蔵文化財包蔵地

▼　弥生・古墳時代遺物採集地点

▲　古代遺物採集地点

●　中世遺物採集地点

■　近世遺物採集地点

調査参加者名簿

現地調査

大谷知可子，坂林素子，杉本光映，高田えみ子，寺井久子，
道谷美奈子，中島和美，橋真理子，牧野正子，三島幸代

整理

大谷知可子，高田えみ子，三島幸代

目　　次

例　言
目　次

Ⅰ　序　　説……1

Ⅱ　二塚地区……3
1．概観……3
2．各遺跡の様相……6
3．遺物……6

Ⅲ　結　　語……8

図　版　目　次

図版１　遺跡　二塚地区　１．上黒田遺跡（西）
２．上黒田遺跡（南）
図版２　遺跡　二塚地区　１．恒性皇子墓（北東）
２．恒性皇子墓（南東）
図版３　遺跡　二塚地区　１．恒性皇子墓（東）
２．西二塚東藤平蔵遺跡（北）
図版４　遺跡　二塚地区　１．西二塚東藤平蔵遺跡（西）
２．西二塚東藤平蔵遺跡（南）
図版５　遺跡　二塚地区　１．三ケ首（南西）
２．三ケ首（北東）
図版６　遺跡　二塚地区　１．三ケ首（東）
２．二塚城鐘掘（東）

挿　図　目　次

第１図　分布調査事業区分図（1/30万）…… 1
第２図　調査対象地区分図（1/15万）…… 2
第３図　二塚地区位置図（1/5万）…… 3
第４図　二塚地区遺跡地図〔１〕(1/1万5千）…… 4
第５図　二塚地区遺跡地図〔２〕(1/1万5千）…… 5
第６図　土器・陶磁器実測図（1/3）…… 7

Ⅰ 序　説

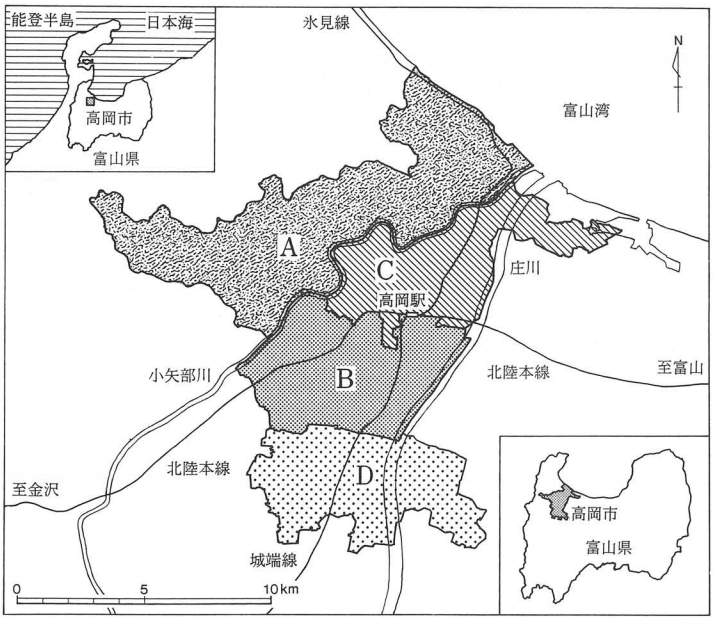
高岡市の位置

高岡市は富山県の北西寄りに位置する。北側は富山湾に臨む。東側は新湊市・大島町・大門町・小杉町と，南側は砺波市・福岡町と接する。また北側は，能登半島の基部東側を占める氷見市である。市域の大部分は，庄川と小矢部川の２大水系によって形成された沖積平野である。これらは，庄川による沖積扇状地部分と，庄川と小矢部川による沖積低地部分とに大別される。砺波平野の北半部と射水平野の西端部に当たる。一方北西部には，西山丘陵と，これに続く二上丘陵が走っている。

西山丘陵埋蔵文化財分布調査

小矢部川左岸一帯の西山・二上地域（西山丘陵・二上丘陵とその周辺の平野部）は，多くの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の所在地として知られていた。昭和50年代に入り道路工事等に伴い，いくつかの遺跡の発掘調査が実施された。当地域に対する各種の開発行為が進むと共に，高岡市は，西山地区での総合開発計画を検討していた。

このような状況の中で，西山・二上地域における遺跡の分布状況や内容の掌握が，埋蔵文化財の保護上急務となってきた。以上のことから，高岡市教育委員会では，昭和58年度～昭和62年度の５箇年に亘り，国庫補助を得て「西山丘陵遺跡分布調査事業」を実施するに至った。その成果は各年度ごとに『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報』Ⅰ～Ⅴとして刊行されている。



第1図　分布調査事業区分図

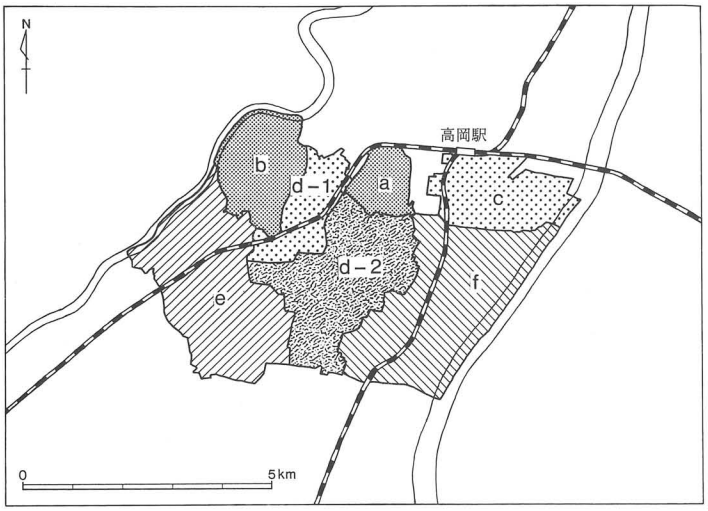
（1/30万）

Ａ．西山丘陵地域

Ｂ．旧市南部地域

Ｃ．旧市北部地域

Ｄ．戸出・中田地域



第２図　調査対象地区分図

（1/15万）

ａ．木津地区

ｂ．東五位地区

ｃ．下関地区

ｄ－１．南条地区北西部

ｄ－２．南条地区南東部

ｅ．千鳥ケ丘地区

ｆ．二塚地区

高岡市埋蔵文化財分布調査

西山・二上地域以外にも，高岡市域に数々の遺跡が存在することは言をまたない。平野部が主体を占める地域でも，農地転用等数々の開発行為がなされつつあるのが現状である。これに対して，遺跡の分布状態の把握が不十分であり，国庫補助・県費補助を得て西山・二上地域以外の市域における分布調査に着手することになった。

高岡市は面積15,000haを計る。この内約6,000haは，前述の通り西山丘陵分布調査として，実施済みの地域である。すなわち，残り9,000haが対象地となった。広い地域であるので，３地域に大別した。市域の南部に当たる旧戸出町・旧中田町を１つの地域，そして残りの地域は昭和30年以前に合併した町・村よりなるので，これをＪＲ高岡駅付近を基準に南北に分け，旧市南部地域，旧市北部地域と称することにした。３地域の中では「旧市南部地域」が，最も遺跡密度が濃いと判断されたので，この地域より開始することにした。

地区割りは，小学校区を基準とし，第２図のように区分した。これらを５つのブロックに分け下記のように５箇年で調査を終えるように配分した。

Ⅰ．平成元年度調査実施地区，ａ；木津地区，ｂ；東五位地区

Ⅱ．平成２年度調査実施地区，ｃ；下関地区，ｄ－１；南条地区北西部

Ⅲ．平成３年度調査実施地区，ｄ－２；南条地区南東部

Ⅳ．平成４年度調査実施地区，ｅ；千鳥ケ丘地区

Ⅴ．平成５年度調査実施地区，ｆ；二塚地区

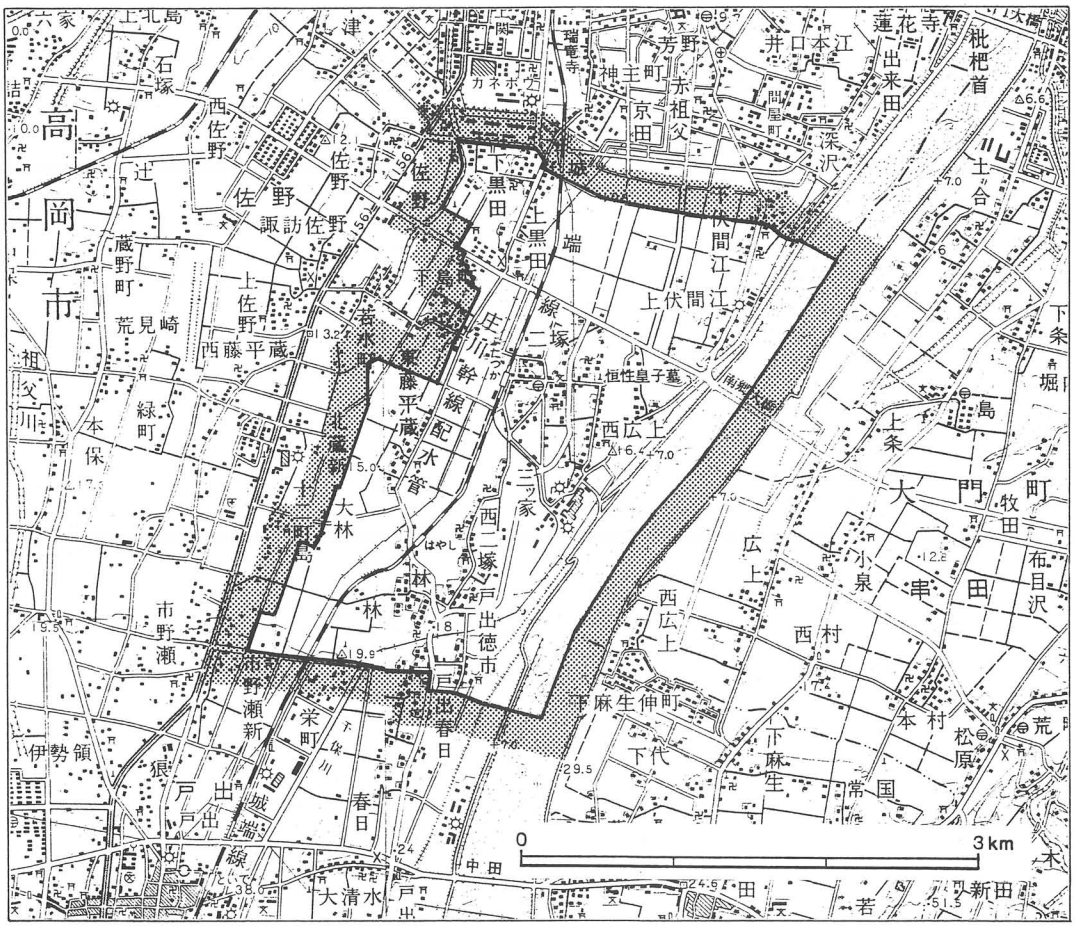
今年度の分布調査

以上のような経緯で，本年度は，二塚地区において分布調査を実施することに至った。現地調査は，４月と11月に実施した。

Ⅱ　二塚地区

1．概　　観

二塚小学校下，約687haが調査対象地である。範囲は，北側が下黒田集落と下伏間江集落とを結ぶラインまで，東側が庄川まで，西側が千保川付近まで，南側が戸出徳市集落付近までである。地形的には，沖積低地部分が大部分を占めるが，南側は庄川が形成した沖積扇状地の末端部分となる。南側が高く北側へ向かって低くなっていく所であり，標高は10～19ｍである。当地区は，かっての二塚村にほぼ該当し，位置的には高岡市街地の南側に接する地区と言える。なお，城端町と高岡市とを結ぶＪＲ城端線が当地区の中央西寄りを南北に貫いている。



第３図　二塚地区位置図（1/5万）

第4図　二塚地区遺跡地図〔1〕(1/1万5千)

11．上黒田遺跡，12．恒性皇子墓
13．西二塚東藤平蔵遺跡

第5図　二塚地区遺跡地図〔2〕(1/1万5千) 13. 西二塚東藤平蔵遺跡

2．各遺跡の様相

11．上黒田遺跡

上黒田集落の北側，下黒田集落の南側に位置している。標高約11ｍを計る。現況は，水田，畑地である。遺跡の範囲は南北200ｍ×東西180ｍである。採集された遺物は，土師器・須恵器・珠洲である。時代的には，古墳時代～中世である。

12．恒性皇子墓

後醍醐天皇の親王恒性皇子の墓と治定されているものである。恒性皇子は後醍醐天皇の倒幕計画の失敗（元弘の乱）の結果，越中に流され当地に幽閉されていた。そして守護名越時有に殺害されたとされている。地元で「太子墓」とされていたものが明治42年に至り，恒性皇子の墓と宮内省から治定された，現在は住宅地の一角に鬱蒼と繁った森の一画として存在している。

13．西二塚東藤平蔵遺跡

ＪＲ城端線二塚駅の南西側一帯が遺跡である。西二塚地区から東藤平蔵地区にまたがって拡がっているので「西二塚東藤平蔵遺跡」と命名した。標高約14ｍを計る。遺跡の範囲は南北600ｍ×東西480ｍである。採集された遺物は，土師器・須恵器・珠洲である。時代的には，古墳時代～中世である。

3．遺　　物

西二塚東藤平蔵遺跡採集の遺物を第６図で示した。

土師器

101～104。椀の101～103と甕の口縁部の104である。

須恵器

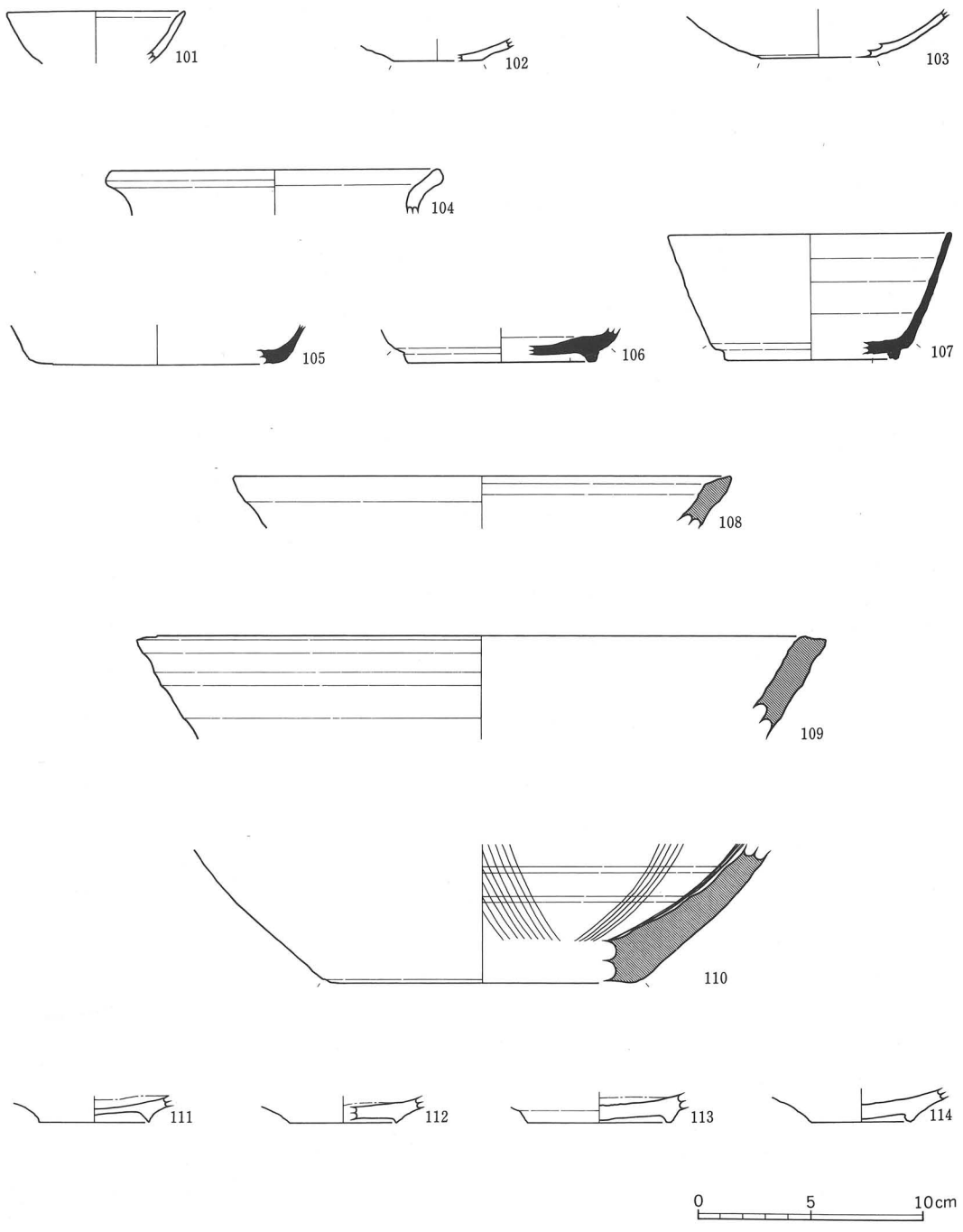
105～107。奈良時代～平安時代の須恵器の杯である。105は高台の付かない杯の底部である。106.107は高台付杯である。

珠洲

108～110。珠洲の擂鉢である。108.109は口縁部片である。小破片のためかオロシ目は確認できない。110は底部片で，オロシ目が付く。

越中瀬戸

111～114。越中瀬戸の皿である。いずれも底部片である。



第 6 図　土器・陶磁器実測図（1/3）

土師器；101～104，須恵器；105～107，珠洲；108～110，越中瀬戸；111～114

Ⅲ 結　語

当二塚地区は，県下第２の大河庄川の左岸一帯に拡がる地区である。また西側には千保川が北流している。この千保川はかつて庄川の本流であったとされている。庄川は扇状地面状を奔放し，氾濫や堆積を繰り返していた。現在の流路に固定したのは江戸時代における加賀藩の工事の結果である。しかし，明治29年には堤防が決壊して二塚地区に大きな被害をもたらし，この洪水による影響が現在の地形からも読み取れる所が存在する。このように，当地区は再三再四庄川による被害を受けてきた地区と言える。

既述のように当地区の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）として３箇所の地点を明示したが，これら以外に推定地や伝承地が存在しており，これらについて若干触れておく。奈良時代射水郡には４箇所の東大寺領荘園が設定されたとされている。この内の一つ「鳴戸荘」推定地が当地区に所在する。これは先に「上黒田遺跡」とした地区の南西側一帯である。「恒性皇子墓」に代表されるように南北朝時代関係の伝承地も多い。越中守護名越時有の居城である二塚城（太刀城）は現在地上にその痕跡を残していないが，区画整理前の旧地図では，拾七ケ用水の屈曲部がこの城の濠の名残りとされている。また「三ケ首」は恒性皇子の従者の首をさらした跡地とされている。「悪王子宮」は名越氏が恒性皇子を幽閉した館跡との伝承を有している。当地区の北側に位置する。上伏間江・下伏間江集落は，南北朝合戦時の伏丘に由来する。

高岡市街地の南側一帯を「旧市南部地域」として５箇年に亘り分布調査を実施してきたが，当地区は他地区と比べると遺跡数は少ない。これには，庄川の氾濫の影響を最も多く受けた地区であることがら，遺跡，埋蔵文化財包蔵地の流失や，土砂の堆積により現在の地表観察では伺い知れない点等も考慮しなければならず，数々の伝承地とも相まって今後とも検討を要する地区と言える。

参考文献

和田一郎　1959『高岡市史』上巻　（高岡市史編纂委員会編）　青林書院新社

車　政雄　1985『越中二塚史』　越中二塚史刊行委員会

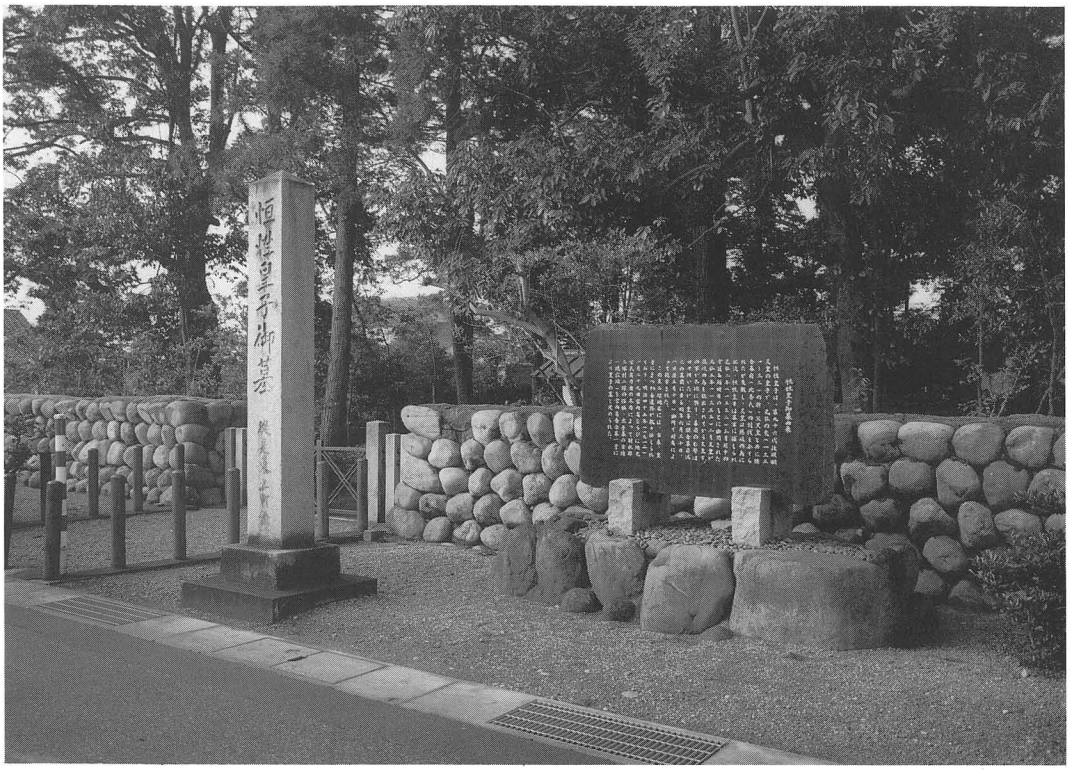
図　　版

1．上黒田遺跡（西）

2．上黒田遺跡（南）

1．恒性皇子墓（北東）

2．恒性皇子墓（南東）



1．恒性皇子墓（東）

2．西二塚東藤平蔵遺跡（北）

1．西二塚東藤平蔵遺跡（西）

2．西二塚東藤平蔵遺跡（南）

1．三ケ首（南西）

2．三ケ首（北東）

図版六　遺跡　二塚地区

1．三ケ首（東）

2．二塚城鐘掘（東）

高岡市埋蔵文化財調査概報第25冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報 V

発行者　高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路７－50

1994年３月31日

印刷所　小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町３